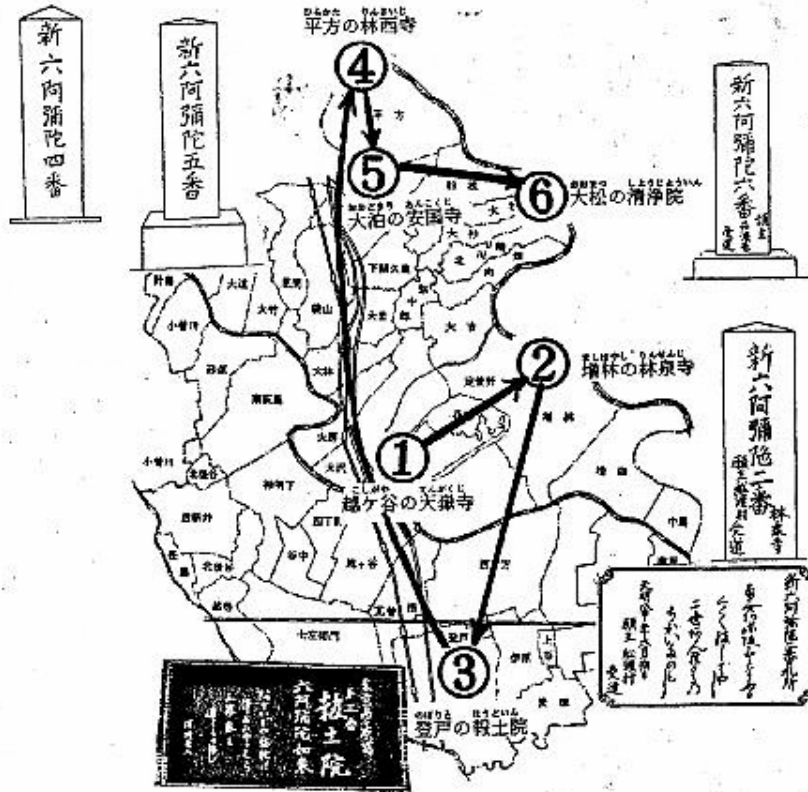


NPO法人・越谷市郷土研究会主催

第345回史跡めぐり

江戸時代のお彼岸の行事

越谷・六阿弥陀めぐり



日時 平成17年9月24日(土)
集合 午前9:00 蒲生駅前
方面 越谷市内の六阿弥陀の六か寺
案内者 加藤幸一・菅波昌夫

越谷「六阿弥陀」めぐり

菅波昌夫

加藤幸一

江戸時代、江戸の町で盛んに行われていたのが六阿弥陀めぐりである。阿弥陀如来像を安置している六ヶ所の寺院を春と秋の彼岸に巡拝する信仰である。明六ツ（午前六時）に自宅を出て一巡六里（二十四キロ）といわれる距離を巡拝し、暮六ツ（午後六時）に帰った。回り方は、太陽が東から南、西へと回るのを模して、時計回りが一般的であったのであろう。

この越谷地域にも江戸の六阿弥陀めぐりをまねて、天明八年（一七八八）に船渡村の受道によって「新六阿弥陀」めぐりが行われたのである。

越谷市内の六阿弥陀の霊場寺院は次の通りである。いずれも浄土宗寺院である。（一番の天嶽寺は推定）

新六阿弥陀一番は、越ヶ谷の天嶽寺。

新六阿弥陀二番は、増林の林泉寺。

石標「新六阿彌陀二番」と

御詠歌が書かれた扁額あり。

新六阿弥陀三番は、登戸の報土院。

御詠歌が書かれた扁額あり。

新六阿弥陀四番は、平方の林西寺。

石標「新六阿彌陀四番」あり。

新六阿弥陀五番は、大泊の安国寺。

石標「新六阿彌陀五番」あり。

新六阿弥陀六番は、大松の清浄院。

石標「新六阿彌陀六番」あり。

新六阿弥陀一番の寺院は天嶽寺と思われる。天嶽寺には石標や扁額は現存していないが、当時勢力のあった浄土宗寺院天嶽寺において他には考えにくいからである。

六阿弥陀のすべての寺院の門前には船渡村の受道が天明八年（一七八八）に造立した「新六阿弥陀何番」と刻まれた石標があって、今も六ヶ寺中、四ヶ寺に現存している。さらに本堂正面の上方に御詠歌が刻まれた扁額もあったに違いない。その名残が林泉寺と報土院に見られるのである。特に林泉寺の御詠歌の扁額は、天明八年に受道によって奉納されたもので、新六阿弥陀めぐり発祥当時の貴重な扁額といえる。

秋のお彼岸 越谷・六阿弥陀めぐり

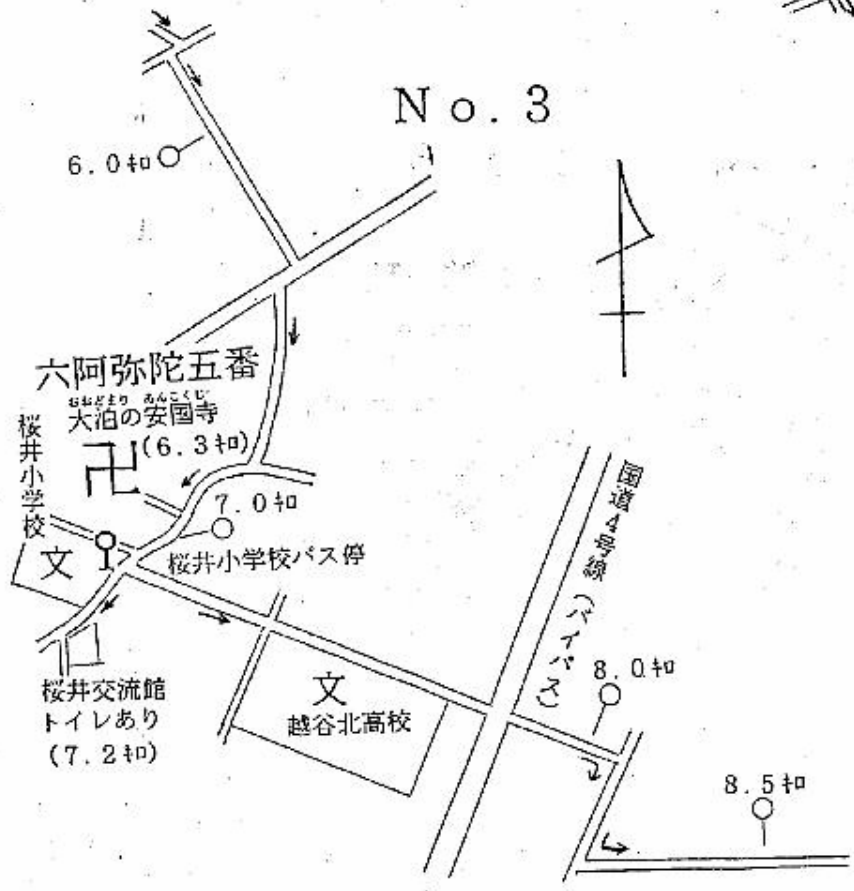
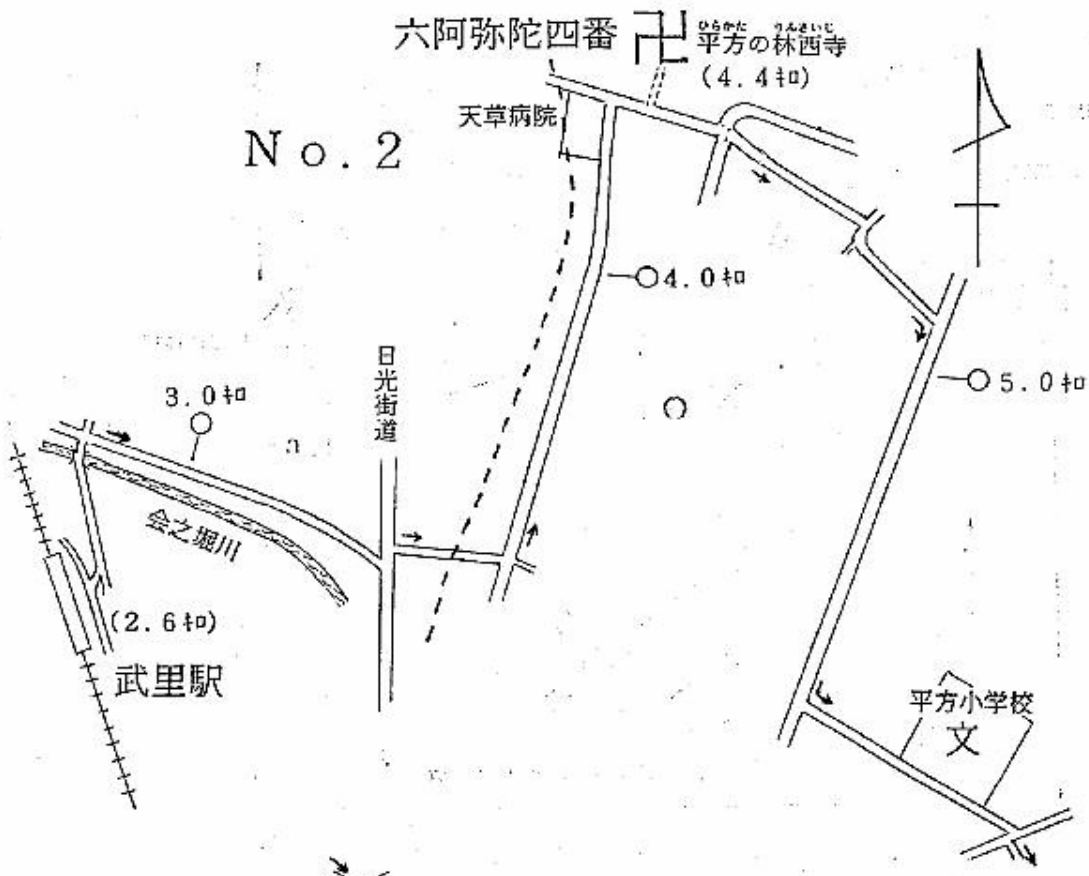
月日 平成17年9月24日(土)

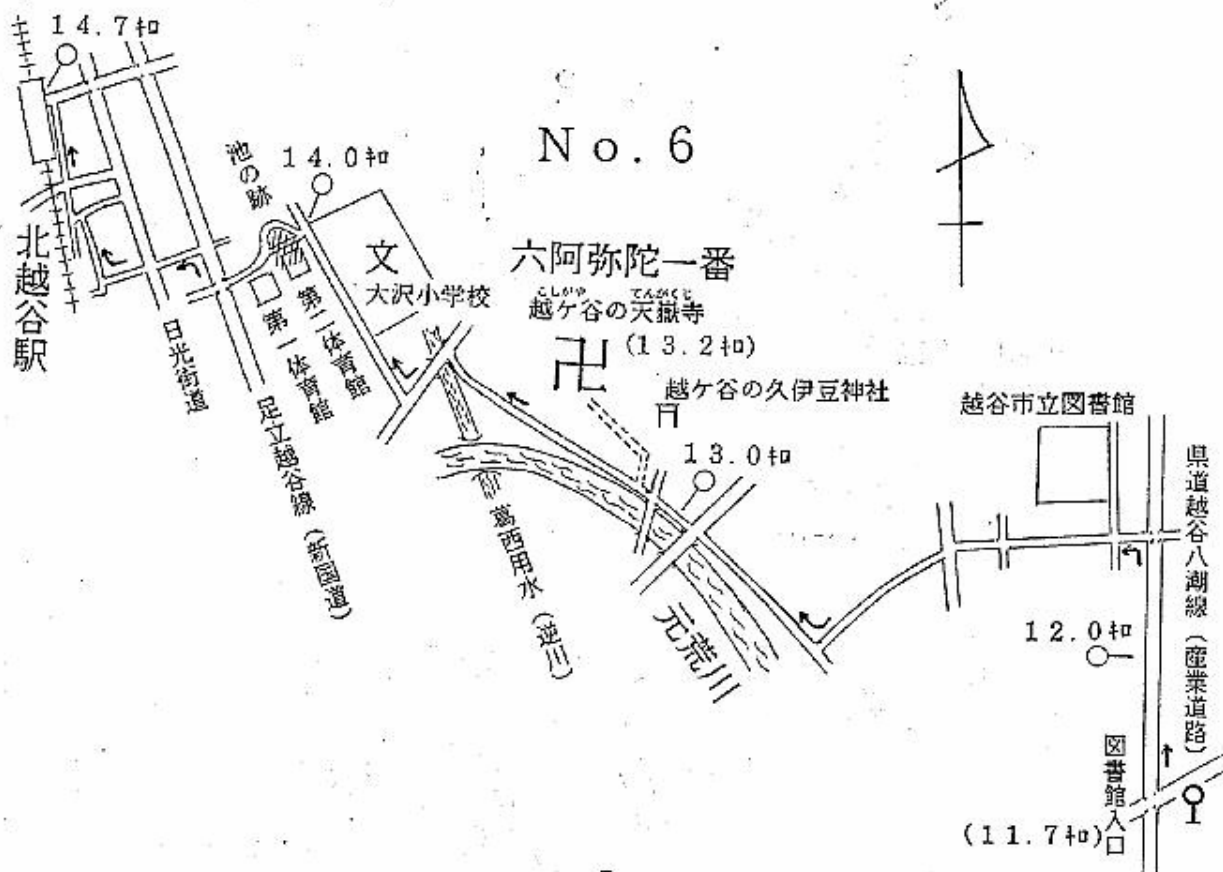
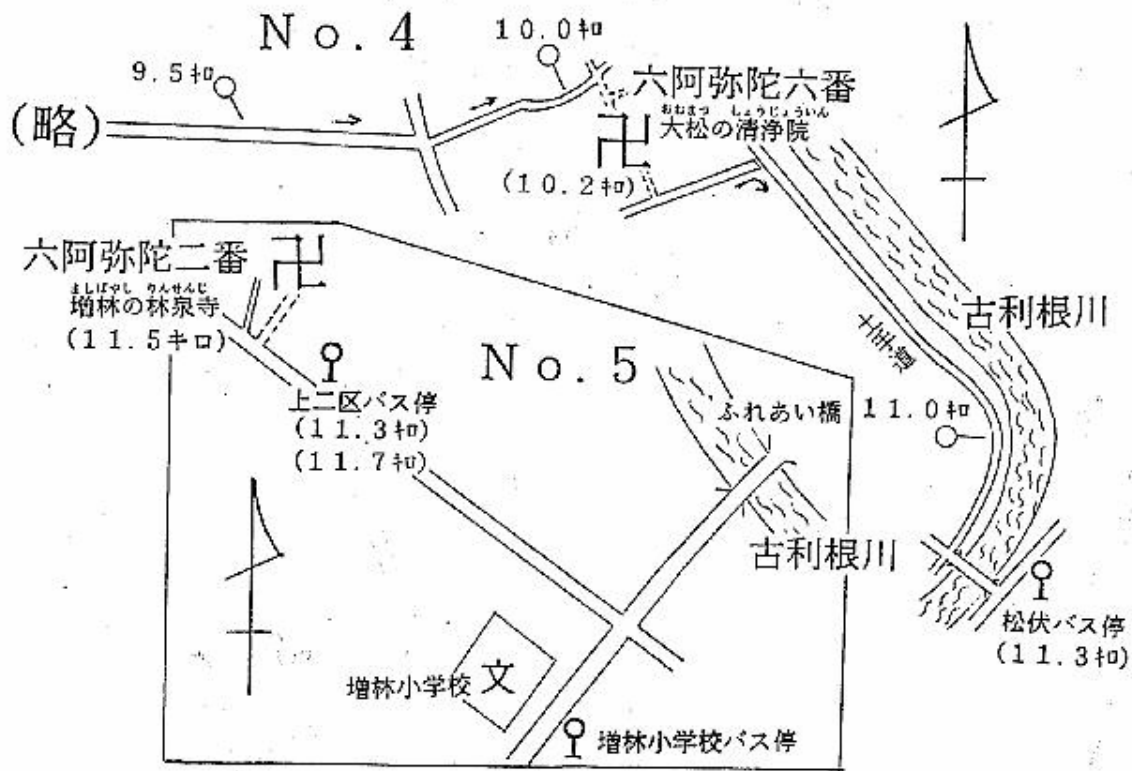
集合 蒲生駅前 午前9:00

コース 蒲生駅→六阿弥陀3番「報土院」(ご住職お話)→蒲生公民館パルコ(トイレ)
 →新越谷駅=武里駅→六阿弥陀4番「林西寺」(トイレ)→安国寺(トイレ)
 →桜井交流館(昼食・トイレ)→六阿弥陀6番「清浄院」→松伏バス停(14:57)
 =上二区バス停→六阿弥陀2番「林泉寺」(ご住職お話)→上二区バス停(16:08)
 =図書館入口バス停→六阿弥陀1番「天嶽寺」→北越谷駅(17:10解散)

案内者 副会長 加藤幸一・常任理事 菅波昌夫

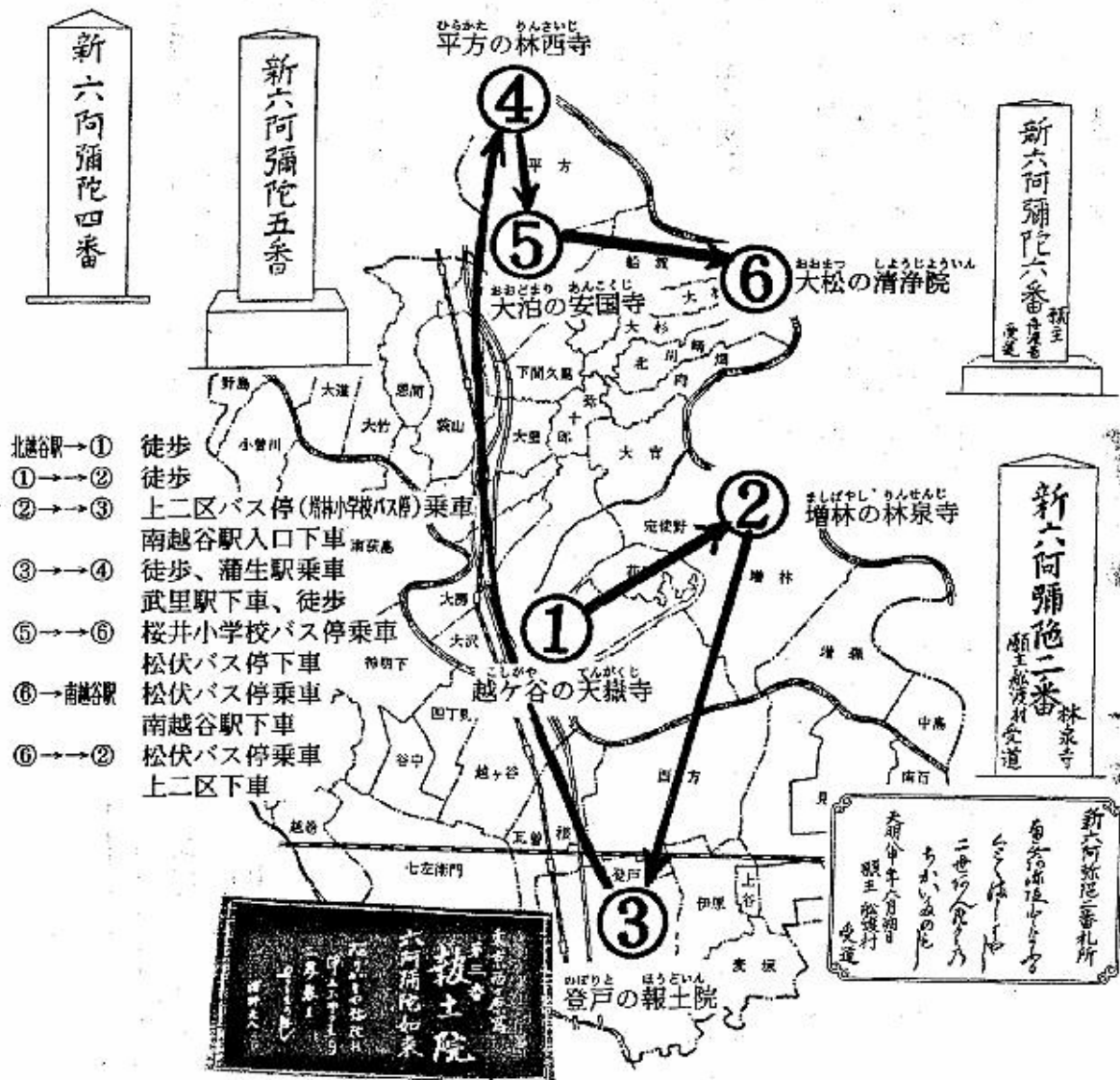






お彼岸の行事『六阿弥陀めぐり』

- 江戸時代の越谷地域では、春と秋のお彼岸のころに一日かけて「六阿弥陀めぐり」が盛んに行われていました。
- 現代人の皆様、正月の「七福神めぐり」もよいですが、**「六阿弥陀めぐり」をやってみませんか。**
- そして、「越谷の六阿弥陀」を郷土の誇りにし、多くの人に知ってもらいましょう。
- 昔ながらの徒歩では一日かかります（朝から夕方まで）。現代人の便利な乗り物、自転車ですと、朝出て昼、又は、昼出て夕で十分に済みます。
- 順路を 4→5→6→2→1→3、或いはその逆ですと短い距離で済みます。



越谷の六阿弥陀

菅波昌夫

阿弥陀如来を祀る六か所の浄土宗の寺を春秋の彼岸に巡拝する信仰である。江戸の町でさかんであつた。越谷でも「新六阿弥陀」詣りがおこなわれていた。

● 浄土宗 本山、京都・知恩寺、東京増上寺(徳川家菩提寺)

「念仏(南無阿弥陀仏)はかり知れない力のあるみ仏に帰依します(を唱えれば、だれでも極楽に往生できる)」というのが開祖・法然(一一三三〜一二一二)の教えである。

むずかしい学問や修行もいらぬ、念仏を唱えればよいが庶民の心をとらえた。

● 越谷の「新六阿弥陀」

一番 越谷 至登山天嶽寺 開山 文明十年(一四七八)と伝えるが、定かでない。江戸期、一町一寺の特権を許された。

越谷の住民になるのは、天嶽寺の檀家でなければならなかつた。

寺領 十五石

二番 増林 正林山林泉寺 開山 長亨元年(一四八七) 江戸初期、徳川家康が鷹狩りで立ち寄つた。

嘉元二年(一三〇二)の観音菩薩坐像(県の文化財)がある。

三番 登戸 報身山報土院 開山 天正十年(一五八二) 元禄期の立地蔵像、享保期の青面金剛康申塔、羅漢像二十七体などがある。

四番 平方 白龍山林西寺 開山 年代不詳 天正十二年(一五八四)、住職となり、中興の祖といわれる呑龍上人の墓がある。

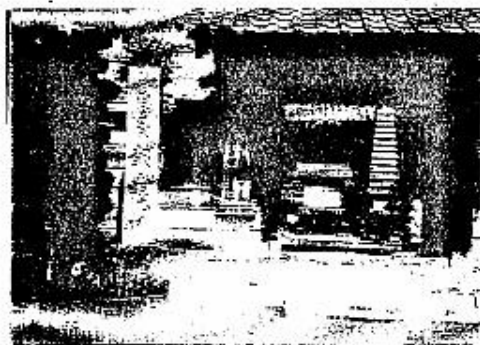
寺領 二五石

五番 大泊 大龍山安国寺 開山 慶応年間(一三三三〜一四二二) 寺領 四石

阿弥陀像、楊柳観音坐像、円空仏三体、板碑、宝篋印塔、山岡鉄舟筆の掛軸、雨乞の名目塔がある。

六番 大松 栄広山清浄院 開山 応永二十一年(一四一四) 閻魔大王像、十一面観世音菩薩像、開山塚(東西一三五m、南北一三三m、高さ一八m)の円墳、(市史跡)がある。

寺領 十二石



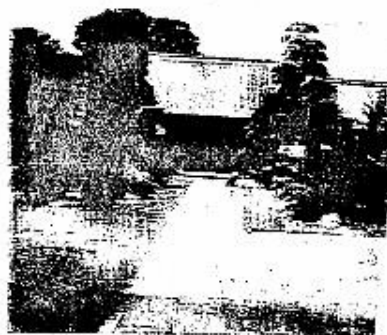
3番 報土院山門



1番 天嶽寺山門



報土院扁額

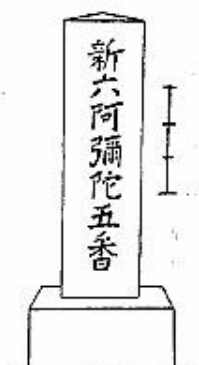


2番 林泉寺本堂

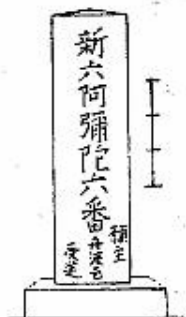
新六阿弥陀二番 林泉寺
願王松尾村 覚道



4番 林西寺本堂



5番 安国寺山門



6番 清浄院本堂

新発見！林泉寺の「新六阿弥陀」扁額

加藤幸一

「新六阿弥陀」札所の御詠歌が刻まれた、縦三十九センチ、横六〇・五センチの扁額が、平成十五年の春に林泉寺の物置より発見されたもので、その後、塗り替へ等の修復をした。これは、江戸時代の天明八年（一七八八）に船渡村の受道によって始められた「六阿弥陀」詣での当時の本堂正面に飾られていたと思われる扁額である。

江戸時代、江戸の町で盛んに行われていたのが六阿弥陀詣である。阿弥陀如来像を安置している六ヶ所の寺院を春と秋の彼岸に巡拝する信仰である。明六ツ（午前六時）に自宅を出て二巡六里（二十四キロ）といわれる距離を巡拝し、暮六ツ（午後六時）に帰った。この越谷地域にも江戸の六阿弥陀詣をまねて「新六阿弥陀」詣として行われたのである。住職の木村憲俊氏によると「旧本堂が昭和四十四年に取り壊された時に、解体保存された仏像や様々な備品が物置に保管され」「平成五年に新客殿が落慶された後、物置中の物を整理しながら追い取り出している」と平成十五年にこの扁額が現出した」という。

この扁額に関して木村氏は、「かつては、巡礼参拝者が本堂正面の向拝（こはい）の下でこの扁額を仰ぎ、和讃を唱えてお参りしていたものと拝察」するとしている。また、林泉寺の門前に「新六阿弥陀二番」と刻まれた標識石塔があるが、このような扁額が「いずれの「新六阿弥陀」の霊場の寺院にもあって、門前の石標（標識石塔、全ての石標に船渡村の「受道」の名前が願主として刻まれている）と同様に参詣者に示されていたものと推測」している。全く同感である。この扁額に刻まれた御詠歌は次の通りである。

新六阿弥陀二番札所
（唱うる）
南無阿弥陀となふる
（功德）（増林）
くつくましはやし
二世あんらくの
（誓い）
ちかいたのもし
天明八申年六月朔日
願主 船渡村
受道

新六阿弥陀二番札所
南無阿弥陀となふる
くつくましはやし
二世あんらくの
ちかいたのもし
天明八申年六月朔日
願主 船渡村
受道

願主の名が刻まれた創設当初の扁額が今日まで残っているのは、とても珍しく貴重である。なお、越谷市内の六阿弥陀の六寺院は次の通りである。いずれも浄土宗寺院である。

- 新六阿弥陀二番は、増林の林泉寺
- 新六阿弥陀四番は、平方の林西寺
- 新六阿弥陀六番は、大松の清浄院
- 新六阿弥陀三番は、登戸の報土院
- 新六阿弥陀五番は、大泊の安国寺

三番を除くすべての寺院には、「新六阿弥陀何番」と刻まれた標識石塔が現存する。

報土院には、「東京西ヶ原（江戸の六阿弥陀の三番寫）」と書かれた後世の扁額が保存されているので、報土院が三番と確定できるが、かつてあったであろう標識石塔は現存しない。

一番は不明であるが、当時勢力のあった越ヶ谷町の浄土宗寺院、天嶽寺と思われる。標識石塔は現存していないが、天嶽寺をおいて他には考えにくいからである。

またこの地域の六阿弥陀めぐりも、太陽が東から南、西へと回るのを模して、時計回りに六里強の道のりを巡拝していたことがわかる。

六阿弥陀めぐり 第二番 林泉寺 扁額（ご詠歌）

新六阿弥陀二番札所

南無阿弥陀となふる

くつくましはやし

二世あんらくの

ちかいたのもし

天明八申年六月朔日

願主 船渡村

受道

六阿弥陀めぐり 第三番

報土院 扁額 (ご詠歌)

扁額の大きさ 縦三六・五センチ、横六六・五センチ

東京西ヶ原寫

第三番

報土院

六阿弥陀如来

ありかたや 弥陀の

浄土に 西かはら

三界衆生

のこるものなし

濱野老人剛

※濱野老人・・・登戸村の名主を代々勤めた家柄の濱野家の先祖である。

《江戸十六阿弥陀》

太陽が回る東から南、西へ、つまり時計回りに紹介すると次のとおりである。

五番 下谷広小路 常楽院 深大寺(調布市)に合併される。

四番 田畑(田端) 与楽寺 北区田端一丁目二五の一

三番 西ヶ原 無量寺 北区西ヶ原一丁目三四の八

二番 豊島村 西福寺 北区豊島二丁目一四の一

※阿弥陀堂は、江戸時代は江北二一四六の清水商店西側の荒川放水路土手付近の

地点にあったが、明治に阿弥陀堂を管理する延命寺が廃止され沼田村の恵明寺

(足立区江北二一四一三)に移る。大正年間に荒川放水路ができ堂は取り壊さ

れ、阿弥陀堂の阿弥陀如来像は恵明寺に移る。

木余り性翁寺(1.34m)

六番 龜戸 常光寺 江東区龜戸四丁目二八

六阿弥陀めぐり 第三番 報土院 扁額 (ご詠歌)

東京西ヶ原寫

第三番

報土院

六阿弥陀如来

ありかたや弥陀の

浄土に西かはら

三界衆生

のこるものなし

濱野老人

